

# CS 分析を利用した授業の評価と改善(1)

## — 授業種別ごとの CS 分析結果の比較 —

南 学・中西良文  
(三重大学教育学部)

### 目 的

文部科学省の調査によると、全国の大学における学生による授業評価（以下授業評価と略記）の実施率は 97%にまで達しており（文部科学省高等教育局大学振興課，2006）、授業評価をめぐる議論は、いかに実施するかからいかに活用するかに移りはじめている。授業評価を授業改善に活かす方法として、南（2007，印刷中）は CS（顧客満足度）分析を提案している。CS 分析は、科目ごとに各授業評価項目に対して改善必要度指標を算出できるのが特長である。各教員は CS 分析の結果をふまえて、各自の授業改善の指針づくりを見つけ、実践しやすくなると期待できる。

南（2007）は、授業評価から授業改善の指針を導くデータ解析法として、CS 分析の簡便な方法を紹介し、授業評価に適した方法を模索してきた。南（印刷中）は、全講義科目を対象に CS 分析をおこなったところ、総合満足度が高まるにつれ適切な教授法に関する授業評価項目の改善必要度が低下することを見出し、CS 分析には一定の妥当性があることを示した。

本発表では、この CS 分析の有用性を高めるための基礎的分析として、授業種別ごとの比較をおこなう。大学にはクラス規模や授業形態が大きく異なる授業が存在している。CS 分析の有用性を高めるためには、それらの科目属性を考慮した補正が必要となる可能性がある。そこで、本発表では、全体としての学問領域は同一ながらも多様な授業形態を有する教育学部の授業に対して CS 分析をおこない、科目属性間の比較をおこなう。

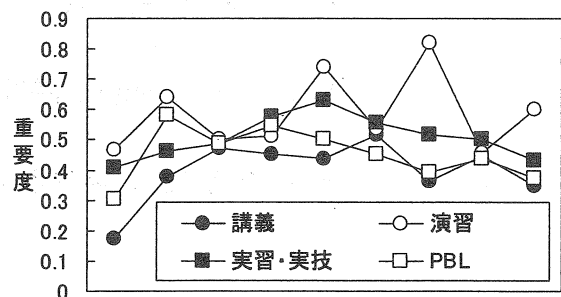
### 方 法

**対象科目** 地方国立大学教育学部開講科目のうち 2007 年度前期に授業評価を実施した科目 118 科目（受講生が少ないなど CS 分析が行えなかった科目を除く）。なお、うち講義 81、演習 12、実習・実技 18、PBL4 科目を分析対象とした（実験と実地研究基礎科目は 2 以下であるので分析から除外した）。

**授業評価の実施方法** 講義日程の終盤に行い、授業担当者または受講生がまとめて提出した。回答は無記名でおこなわれた。

### 結 果

CS 分析では、各項目に対して改善必要度指標を算出する（詳細は南（2007）を参



授業目標 シラ 授業 内容 質問 教員 自主 評価  
態度 達成 バス 準備 理解 対応 熱意 教材 明示

図1 授業種別の重要度

照のこと)。その過程で各項目の重要度と満足度を算出するので、科目種別にそれぞれ集計し図 1、2 に示した。なお、満足度に関しては南（印刷中）にしたがい、全体を基準とした標準化をおこなっている。図 1 からは演習群のパターンが特徴的であり、図 2 からは PBL 群の満足度が全体として高い傾向が示された。

次に、重要度と満足度をもとに改善必要度を算出したものを図 3 に示した。図 3 からは、どの種別も「内容理解」の項目の改善必要度が高いこと、PBL 群において「評価明示」の改善必要度が高いことが顕著である一方、その他の項目は全般的に低いことが示された。

## 考 察

CS 分析の結果から、「内容理解」の項目の改善必要度が総じて高いという結果が見出されたが、これは多くの先行研究で指摘されている、「内容理解」を高めることが総合満足度の向上に強く影響するという知見に一致しているといえる。このことは間接的ではあるが、CS 分析の妥当性を支持する証拠と解釈することができるだろう。

PBL 群の改善必要度のパターンが他の種別ととくに異なることが見出された。PBL は問題解決的で多様な解決方法が考えられる授業形態であるため、受講生には評価基準が不明確であると判断されやすいと考えられる。しかし、同時に PBL 群の満足度が全般的に高いという、従来から指摘されている（井上，2005）特長も確認できた。

本研究の目的の 1 つに、授業種別によって CS 分析の算出基準を変更すべきかどうかという点について検討することがあるが、上記の変動は了解可能なものであり、授業種別の特長を表していると考えられる。したがって、本研究の結果からは授業種別による補正の必要はないと判断できるが、今後はその他の学部においても同様の結果が得られるのか検討を続ける必要があるだろう。

## 引用文献

- 井上 明 2005 PBL(Program-Based Learning)による問題発見解決型情報教育 IT 活用教育方法研究, 8, 41-45.
- 南 学 2007 学生による授業評価への CS 分析の適用 三重大学教育実践総合センター 紀要, 27, 29-34.
- 南 学 印刷中 授業評価における CS 分析に基づいた改善必要度指標の特性の検討 三重大学教育学部紀要, 59
- 文部科学省高等教育局大学振興課 2006 大学における教育内容等の改革状況について [http://www.mext.go.jp/b\\_menu/houdou/18/06/06060504.htm](http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/18/06/06060504.htm)

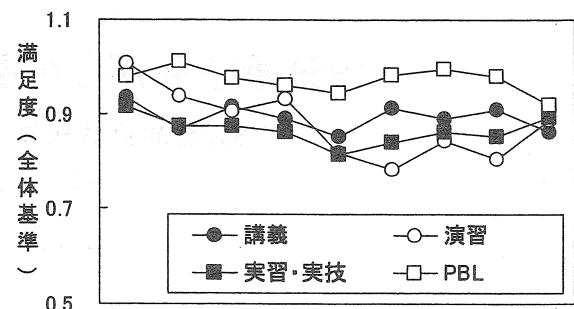


図2 授業種別の満足度(全体基準)

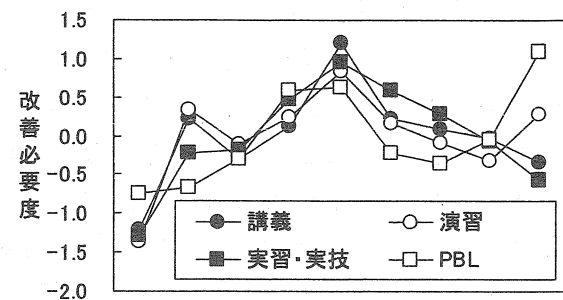


図3 授業種別の改善必要度